

- 経営体の大規模化が進む一方で、飼養頭数の減少により生乳生産量が減少。環境や衛生に対し改善意識が低い農場がみられる一方、規模拡大志向の強い農場では先進技術等の吸収意欲が高い。
- 草地除染終了による新播草地や飼料畑面積が増加。規模拡大を背景に飼料生産作業の外部化の動きが進行している。一方、鳥獣被害が増加し粗飼料確保の重大な支障となっている。
- いわて酪農の郷サポートチーム（以下、酪サポチームと略）と連携し、各地域の巡回指導を支援。各団体等と連携し研修会等の企画、開催を支援し、酪農家や指導者の技術向上を図っていく。
- 広域コントラクタによる粗飼料生産の外部化の拡大を図るため、関係機関や各普及センターと連携し、作業の円滑化、効率化に向けた取り組みを推進。

普及活動の成果

主な活動内容

1 生乳生産量の伸び率

- ・H26年度対比 100%（飼養頭数の減少により横ばい）
- ・若手酪農家を中心に技術向上や生産意欲を喚起。

2 牧草地の安定生産(除染実施農家、公共牧場)

- ・除染実施後のフォローアップ支援、公共牧場の植生改善による生産力の安定化に寄与。

3 外部支援組織の機能強化による生産性向上

- ・広域コントラクタの作業受託面積の拡大
収穫作業 H26 176ha → H28 212ha

1 関係者との酪農家指導情報の共有と支援連携

- 酪サポチーム会議等での指導状況共有、指導方法の検討助言、現地指導等を実施。

2 搾乳衛生技術の定着による乳質改善

- 関係団体との連携による指導方法検討、技術啓発資料の作成と全戸配布、各酪農サポチームと連携した現地指導等を実施。

3 技術向上研修の開催による指導力農向上等

- 各関係団体と連携した研修会等の企画、開催を支援。

4 牧草地の安定生産

- 各種研修会等における指導、技術資料の作成配布等により除染実施圃場の適正管理を推進。
- 公共牧場での新しい低コスト植生回復技術の実証。

5 広域コントラクタ組織の作業効率化

- 広域コントラクタに対し、作業データ分析による課題抽出、改善策の提示により効率改善を支援。

6 鳥獣害防止対策による被害軽減

- 指導者向け研修会の開催、鳥獣被害防止チームとの連携による現地支援活動を実施。



県外先導的経営体視察

乳質改善資料の作成・配布



23 25 28年



広域コントラクタの活動状況と収穫受託面積の推移

普及活動の特徴

- 「いわて酪農の郷サポートチーム会議」により、支援活動の情報共有を図るとともに、各地域の酪農家巡回指導活動を支援。
- 各種関係団体と連携した、酪農家や指導者向け研修等を企画、開催支援。
- 岩手県農業公社、地域普及センターと情報共有し、飼料用とうもろこしの面積拡大と良質粗飼料生産に向けた広域コントラクタの作業計画調整及び委託元酪農家への肥培管理指導を実施。今後の新たな受託拡大に向けた、牧草収穫調製試験をコーディネート。

関係機関との連携

- 中央農業改良普及センター県域普及グループは、関係会議での助言や技術情報提供、現地指導により各地域の酪サポ活動、飼料増産活動を支援。また各団体等との連携により酪農家、技術者向け研修会を開催。
- 本庁畜産課は全体調整を図るとともに、取り組み成果を酪農振興、飼料増産施策立案に活用。
- 岩手県農業研究センター畜産研究所は、普及センターと連携し開発技術の現地実証を行い、研究成果を波及。
- 地域普及センターは、酪サポ活動の主体として地域関係者と協働し酪農家への巡回指導を展開。研修会や指導農家の拡大等により成果を地域に波及。
- 広域コントラクタを担う、岩手県農業公社は普及センターと連携し、活動の効率化、円滑化を推進する。